

(3) 検証授業の準備をする。
(YES, NO 評価)

○評価内容には次のような例が考えられる。

- ① 授業仮説の観点・内容などを理解したか。
- ② 授業観察の方法に習熟したか。
- ③ 授業観察の分担・内容を理解したか。
- ④ データをどのように処理するか理解したか。
- ⑤ 観察用紙、場所、用具・機器等の準備をしたか。
- ⑥ 検証授業の準備が完了したことを確認したか。

NOの場合、次のような方法が考えられる。①では検証授業案を確認する。または授業者や研修主任に確認する。②では前もって練習して、より正確なデータを得るよう習熟しておく。③ではリーダーが具体的に説明する。④では事前テスト、事後テスト等の結果をS-P表や有効度指数を求めグラフにしたり、レーダーチャート等ににする。⑤では担当者自身が確認する。⑥ではリーダー等が確認し、必要に応じて指示し確認する。検証授業中もその配慮をする。

② 事後研究に関する方法を明確にする。
(1) 事後研究のための資料内容を明確にする。
(YES, NO 評価)

○評価内容には次のような例が考えられる。

- ① 授業観察の進め方等、改善できた部分、改善を必要とする部分をまとめたか。
- ② テスト等から授業仮説に対する診断ができる内容にまとめたか。
- ③ 授業観察記録等から授業仮説に対する診断ができる内容にまとめたか。
- ④ 授業仮説の有効性を検討する資料ができたか。

NOの場合、次のような方法が考えられる。①では授業仮説検証のための内容に絞ってまとめ、その他の内容については今後の検討課題として記録を累積する。②ではS-P表、グラフ、レーダーチャート、有効度指数等を用いる。③では目的の内容にまとめるためにはKJ法等を用いる。④では②～③の内容を具体的にまとめる。

(2) 資料をもとに授業仮説の有効性を検討する。
(YES, NO 評価)

○評価内容には次のような例が考えられる。